

トラブルにより29周にて戦いを終える

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round2 『FUJI GT500km RACE』
DATE	予選：2015年5月2日 決勝：2015年5月3日
CIRCUIT	富士スピードウェイ（静岡県）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ
RESULT	予選：11位 決勝：リタイア

2015年SUPER GTシリーズ第2戦「FUJI GT500km RACE」がゴールデンウィーク真っ只中の5月2、3日に静岡県・富士スピードウェイにおいて行われた。レースウィーク中は爽やかな行楽日和に恵まれ、多くの観客が来場。その声援を受けてTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは予選11位から上位進出を狙ったが、車両トラブルに見舞われ、わずか29周で戦いを終えている。



シーズン開幕戦の岡山では躍進を見せ、レースでは見事2位表彰台の好成績を手にしたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。今回の富士では、通常のレースよりはるかに長い500kmの距離を味方につけ、安定した速さで粘りある戦いを見せたいところ。またライバルを意識した今シーズンの勢力図も見えてくると思われるだけに、この一戦でチームとしての実力をしっかり引き出すことも重要と考えられた。

土曜日の朝、まず公式練習がスタート。チームでは最初に伊沢拓也がコースイン、予選に向けてのセットアップを確認し始めたが、伊沢はすぐにエンジンの不調を感知。無線で内容を伝え、ピットへとクルマを戻した。応急処置の後、再びコースへと向ったが、依然状況は変わらず。結果、チームではセッション中の走行を見送り、午後からの予選に向けてエンジン交換の敢行を決断した。

◎ 予選：

朝から青空が広がった富士スピードウェイ。午後からのノックアウト予選では、気温26度、路面温度38度まで上昇する。短時間でエンジン交換を済ませた

No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTには、この日、初走行を迎える山本尚貴が乗り込む。まさにぶっつけ本番のアタックとなる中、1分29秒164のタイムをマークしたが、予選への準備不足が響き、Q1突破は果たせず。結果、翌日の決勝は11番手からスタートを切ることになった。

「朝の走行でトラブルが出て、データもない中、アタックしなければならなかったのですが、クルマに関しては、以前のテストでやったことをベースにしたため、大きな問題はなかったんですが…」とアタックを終えた山本。気温、路面温度の上昇にクルマ、タイヤを合わせ込むという最終の詰めには十分な時間を割くことができなかった、と悔しさをにじませた。また、朝のセッションでトラブルに遭遇した伊沢は、「Q1を担当した山本選手はセットアップも十分でない中、よくがんばってくれたと思います」とパートナーを思いやり、「明日は500kmと長いので、あきらめずじっくり戦いたい」と気持ちを切り替えていた。



◎決勝：

迎えた決勝日。前日同様、澄み渡った青空がサーキット一面に広がった。早朝から多くのレースファンが足を運び、およそ5万8千人が詰めかける中、まず午前9時から30分間のフリー走行が行われる。セッション中、山本、伊沢の両ドライバーは、燃料を多く搭載した状態でのクルマのバランス確認やタイヤの摩耗などをチェック。決勝に向けて最終準備を着々と進めた。

午後2時15分、気温25度、路面温度39度の中、500kmの戦いが幕を開け、山本がスタートを切る。混戦する中、ダンロップコーナーへと向った山本だが、このとき後続車両に追突されてスピンを喫し、最後尾へとドロップダウンするアクシデントに巻き込まれた。山本はなんとか態勢を整え直し、戦線復帰。再度追い上げを見せるべく力走を続けた。だが途中、Bコーナーで出されていた黄旗2本区間での追い越しに対するペナルティが科せられることに。するとこれに合わせたかのように、エンジンのパワーが急激に低下。このトラブル原因を先に究明し、ピットでの応急処置を施そうと、チームはまずピットインを指示。山本は29周を走り終え、ピットへとクルマを滑らせた。



ところが停車した瞬間にクルマのエキゾーストから火が上がり、突然の消火作業を強いられたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。エンジンのタービントラブルが原因だったようだが、この時点で為す術はなく、不意をつかれたチームではこれ以上のレース続行は不可能と苦汁の判断。わずかに29周でレースを終えることとなった。

開幕戦での好走から一転、富士ではファンの前で力走を披露できぬまま戦いを終えたTEAM KUNIMITSU。第3戦はタイ・プリラムへと舞台を移すことになるが、日本から離れた灼熱のサーキットでの健闘を誓ったのは言うまでもない。

◎高橋国光総監督

長くレースをしていると、悪いときもあるのは重々承知しています。しかしながら、これほど悲しいものもありません。この週末はまず最初のハプニングからチームがみんながんばり、改めて志気を高めてのレースを迎えただけに、ショックですね。仕方ないというひと言に尽きるのですが、気持ちを切り替えてタイでの戦いに挑んでもらいたいと思っています。

◎山本尚貴選手

走行中にエンジンパワーが落ちてきたので、無線で症状を伝えていました。ほぼ同時期に、黄旗無視のペナルティが科せられてしまったのですが、まずはクルマのトラブルを確認しようということになり、ピットインしました。するとその瞬間にエキゾーストから失火したようです。散々なレースウィークになってしまいました。次のタイはまだ有力チームの差も少なく、ウェイトを積んで戦う状態です。ほぼイコールコンディションなので、また一からがんばります。

◎伊沢拓也選手

土曜日の時点で一度エンジンを載せ変えているので、とにかく決勝では粘り強く戦おうと思っていました。詳しいクルマの状況までは押えていなかったのですが、とりあえずドライバー交代の準備をして待機していました。トラブルが続いてしまい、とても残念です。次のタイは僕にとって初めてのサーキットになりますが、まずは暑さとの戦いになるので、そこをうまく対処できればいいと思います。一方で、ライバルとの戦いはまだ差もついていない。改めてしっかりいい戦いをしたいですね。



第3戦は6月20～21日にタイ・チャンインターナショナルサーキットにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。